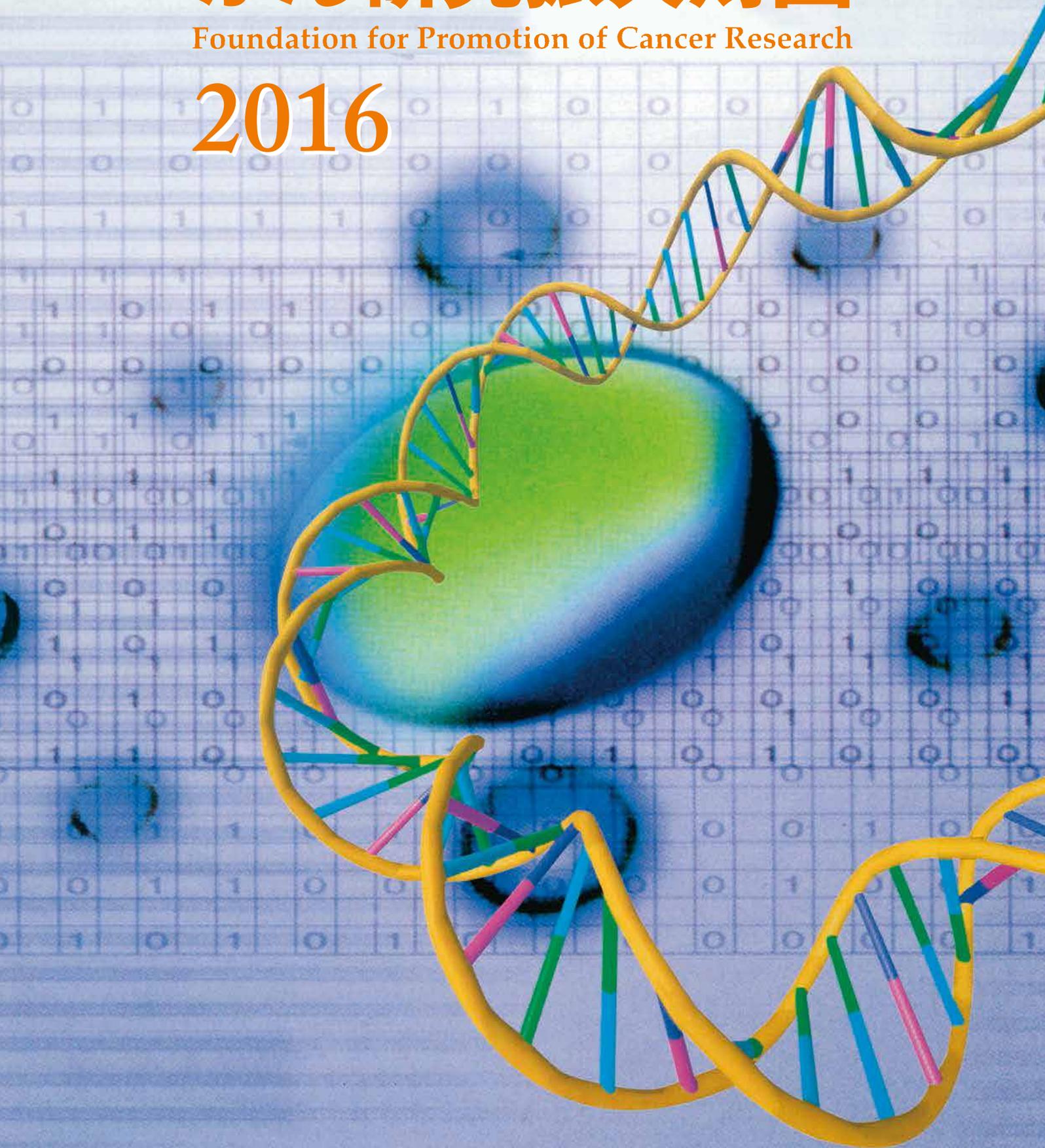


公益財団法人

がん研究振興財団

Foundation for Promotion of Cancer Research

2016



公益財団法人がん研究振興財団の概要

沿革

- 昭和40年12月 「がん研究振興会」として発足
- 昭和43年 9 月 厚生省より「財団法人がん研究振興会」として認可
- 昭和59年 3 月 寄付行為改正により「財団法人がん研究振興財団」に名称変更
- 平成24年 4 月 内閣総理大臣より「公益財団法人がん研究振興財団」として認可
(公益認定)

設立の経緯

遡ること約半世紀前の「がん」の状況は、社会においても家庭においてもかけがえのない立場にある年齢層の人達の健康にとって最大の脅威となっており、医学の進歩をもってしてもなお、未知の分野を多く残していました。

国のがん対策は、昭和37年我が国初のがん専門病院として国立がんセンターが開設され、専門的な研究、診断、治療が行われました。

当財団の設立に当っては、「がん」について医学的にも未知の分野が広く、研究すべきことが山積した状況の中で、官民一体となり、国費のほか一般の方々からの浄財を以てがんの治療、予防技術の開発事業を行うため、昭和40年12月「がん研究振興会」として発足し、その後昭和43年9月、初代会長に経済団体連合会会長であった石坂泰三氏、副会長に富士銀行頭取の岩佐凱實氏、理事長に八幡製鉄副社長藤井丙午氏、常務理事に経済団体連合会専務理事花村八郎氏による経済界を挙げての組織体制により厚生省から財団法人として認可設立されました。

昭和59年度からは、国による「対がん10か年戦略」に伴う事業を実施するため、昭和59年3月、名称を「財団法人がん研究振興財団」と改め、推進事業を30年に亘り実施して参りました。

また、平成24年4月に内閣総理大臣から全事業を公益事業とする認定を受けております。

事業内容

- (1) がん研究に関する研究の助成
- (2) がん研究に関する国際協力及び国際交流
- (3) がん研究に関する若手研究者の育成
- (4) がん研究に関する国民への情報発信
- (5) がん研究に関する国内外諸団体との連携及び協力
- (6) その他本財団の目的を達成するために必要な事業

役員・評議員名簿

平成28年7月1日現在

会 長 荒蒔康一郎（キリンホールディングス株式会社 元会長）

理 事 長 堀田 知光（公益財団法人がん研究振興財団 理事長）

理 事 上田 龍三（愛知医科大学医学部 教授）

垣添 忠生（公益財団法人日本対がん協会 会長）

関谷 剛男（公益財団法人佐々木研究所 常務理事・研究所長）

田中 利彦（田中綜合法律事務所 代表弁護士）

山口 俊晴（公益財団法人がん研究会 有明病院 病院長）

監 事 亀口 政史（亀口公認会計士事務所 所長）

評 議 員 石田 昌宏（参議院議員）

澁谷 正史（上武大学 学長）

菅野 純夫（東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授）

田島 和雄（三重大学大学院医学系研究科 客員教授）

中釜 齊（国立研究開発法人国立がん研究センター 理事長）

野田 哲生（公益財団法人がん研究会 代表理事・常務理事 研究所長）

宮園 浩平（東京大学大学院医学系研究科 教授）

村上 善則（東京大学医科学研究所 所長 教授）

2015年度事業実績

1 研究助成事業

① がん研究助成

第48回がん研究助成審議会の審査を経て、次のとおり研究助成金を贈呈。

第48回がん研究助成金
一般課題 A (100万円) 10名 一般課題 B (50万円) 10名 特定課題 (200万円) 3名

② 指定研究助成

特別寄付金に伴う研究助成金として贈呈。

「大腸ポリペクトミーに於いての抗凝固剤を服用されている方へのコールドポリペクトミーの有用性の検証」
1件 27万円 1名

③ 海外派遣研究助成

がんに関する国際会議、国際学会へ出席する研究者・医師30名に対し、海外旅費等の助成。

④ 技術者研修助成

看護師、薬剤師、放射線技師等のコ・メディカルスタッフ8名に対し、海外旅費等の助成。

2 がんになっても生きる希望を持てる事業(HOPE事業)

① 研究助成(個別研究課題)

がんに関する研究に従事する日本人研究者で、わが国のがん研究の推進・発展に貢献する研究課題に「HOPE事業等運営委員会」の審査を経て研究助成金を贈呈。(5名)

研究課題名	
1	非小細胞肺癌における免疫チェックポイント阻害薬の効果予測因子の検討
2	味覚・食感を損なわず口内炎の痛みのみを取る CompoundX の Phase I (First in human) 試験 ～口内炎に苦しむがん患者を対象とした Phase II 試験につなげるための研究～
3	がん医科歯科連携推進のための支援ツールの開発と普及に関する研究
4	がん細胞の DNA 複製ストレスレベルによる DNA 損傷性抗がん剤の奏効性予測
5	がんの予防情報の理解と実践を高めるための効果的な情報提供手法の検討

② 若手、女性研究者の戦略的育成(シニア・リサーチフェロー制度)

がん研究の第一線で活躍する研究者の指導を受け、将来のわが国のがん研究の中核となる若手の上級研究者を育成。(5名)

	医学	歯学	理学	薬学	農学	その他	計
2015	3		1			1	5

③ がんサバイバーシップ研究支援事業

がんサバイバーシップに関する研究の進歩・発展に貢献する研究への助成。(16名)

研究課題名	
1	男性がん患者の抱える社会生活上の困難と相談支援ニーズ
2	がん患者の就労支援の在り方と改善策に関する研究(電話相談による介入と改善策の研究)
3	「がんを知って歩む会」改編プログラムと運営スタッフ向け教材の開発
4	がんサバイバーシップにおける食事支援
5	造血幹細胞移植サバイバーにおける生活習慣病の実態調査
6	がん患者の栄養・食事環境の整備に関する研究
7	理美容師を対象としたがん患者の外見ケアに関する教育研修プログラムの開発
8	がん患者の経済的負担の実態調査と改善方策に関する研究(特に傷病手当金制度利用に関して)
9	小児がん克服者の男性不妊治療を支援する画像診断法の開発
10	AYA世代の小児がん患者に対する学校教育の役割に関する調査研究-「自立活動の指導」に焦点をあてて
11	手術を受けた食道がん患者が「自分に合ったよりよい退院後の生活をする」ための支援プログラムの開発と普及
12	地域におけるリンパ浮腫予防指導に関するニーズ調査:がんサバイバーと看護師・保健師の視点から
13	「患者を身近で支える人」の困りごとの多面的調査による情報ニーズの把握と分析
14	がんサバイバーのための処方別がん薬物療法説明書の開発
15	視覚障害がある人のがん情報収集の実態と対応策に関する研究
16	がん患者のインターネットにおける情報発信とその有用性について

4 研究成果等普及啓発事業

がん患者学会、公開セミナーを開催。また、研究の成果を国民にフィードバックするため、各種情報媒体を活用し、がん教育の普及啓発を推進。

がん患者学会の開催(共催)

開催日 平成 27 年 12 月 19 日(土)～12 月 20 日(日)
会 場 国際研究交流会館

公開セミナーの開催

テーマ 「高齢者のがん」
一本当に今の治療で良いのかー
開催日 平成 28 年 3 月 13 日(日)
会 場 国際研究交流会館

5 広報活動事業

①主に全国の公立中学校2年生に向けて配布。その他保健所・市区町村・がん診療連携拠点病院等。
(印刷部数 各 1,410,000 部)



【要旨】
・どんな病気？
・検診方法
・治療法の紹介 etc

②全国のがん診療連携拠点病院等へ配布。



【要旨】
新 12 か条の提案と各条の説明
(印刷部数 10,000 部)



【要旨】
・がん罹患率、死亡率年次推移
・部位別、年齢階級別5年・10年生存率 etc
(印刷部数 5,000 部)

がんの専門家のみならず一般の方にもわかりやすいがんの統計本として年1回発刊。

※いずれも財団ホームページにて閲覧可能。

これまでの事業実績

1984～2014

政府によるがん研究推進事業の実績

国による対がん戦略

S59.4～(1984年～)

対がん10か年総合戦略 (厚生省、文部省、科学技術庁)

戦略目標「がんの本態解明を図る」

- ① ヒトがん遺伝子
- ② ウイルスによるヒト発がん
- ③ 発がん促進とその抑制
- ④ 新しい早期診断技術の開発
- ⑤ 新しい理論による治療法の開発
- ⑥ 免疫の制御機能および制御物質

H6.4～(1994年～)

がん克服新10か年戦略 (厚生省、文部省、科学技術庁)

「がんの本態解明から克服へ」

- ① 発がんの分子機構
- ② 転移・浸潤およびがん細胞の特性
- ③ がん体質と免疫
- ④ がん予防
- ⑤ 新しい診断技術の開発
- ⑥ 新しい治療法の開発
- ⑦ がん患者のQOL

H16.4～(2004年～)

第3次対がん10か年総合戦略 (厚生省、文部科学省)

「がんの罹患率と死亡率の激減」

- ① がんの本態解明
- ② 基礎研究の成果の予防・診断・治療への応用
- ③ 革新的ながん予防・診断・治療法の開発
- ④ がん予防の推進による生産がん罹患率の低減
- ⑤ がん医療の均てん化

- H18.8 がん対策基本法 成立
- H19.4 がん対策基本法 施行
- H19.6 がん対策推進基本計画 閣議決定

H24.6 がん対策推進基本計画(第二期)閣議決定

H26.4～(2014年～)

がん研究10か年戦略 (厚生労働省、文部科学省、経済産業省)

「根治・予防・共生～患者・社会と協働するがん研究～」

- ① がんの本態解明
- ② アンメットメディカル ニーズに応える新規薬剤開発
- ③ 患者に優しい新規医療技術開発
- ④ 新たな標準治療
- ⑤ ライフステージやがんの特性に着目した重点研究領域
1. 小児がん 2. 高齢者のがん
3. 難治性がん 4. 希少がん等
- ⑥ がんの予防法や早期発見手法
- ⑦ 充実したサバイバーシップと実現する社会の構築
- ⑧ がん対策の効果的な推進と評価

H26.3 がん研究10か年戦略
(厚生労働大臣、文部科学大臣、経済産業大臣確認)

■ リサーチ・レジデント制度

若手研究者を採用してがん研究に参画させ、将来のがん研究の中核となる人材を育成。

年度	医学	歯学	理学	薬学	農学	その他	
1984～1993	345	9	36	44	19	-	
1994～2003	586	23	25	49	19	51	
2004～2013	395	19	49	64	50	130	総計のべ
2014	34	2	6	1	1	5	1,943

■ 外国人研究者の招へい

諸外国の第一線の優秀な研究者を招へいし、わが国の研究者とともに国際共同研究を実施。

年度	1984～1993	1994～2003	2004～2013	2014	計
招へい者数	351	280	144	1	776

■ 日本人研究者の外国への派遣

わが国のがん研究者を外国の大学・研究機関などに派遣し、外国の研究者とともにがん最前線の研究を実施。

年度	1984～1993	1994～2003	2004～2013	2014	計
派遣者数	280	356	202	3	841

■ 外国への研究委託

国内では実施の困難な研究などを、国際的に顕著な実績を有する外国の研究機関に委託。

年 度	1984～1993	1994～2003	2004～2007	計
テーマ数	42	25	3	70

■ 国際がん研究シンポジウムの開催

世界の著名ながん研究者を招いて日本人研究者とのシンポジウムを開催。

年 度	テーマ	
1988～1993	肺がんの基礎と臨床 多重がんの基礎と臨床 膵・胆道がんの基礎と臨床	肝臓がんの基礎と臨床 尿路性器がんの基礎と臨床 食道がんの基礎と臨床
1994～2003	肺がんの基礎と臨床 脳腫瘍の基礎と臨床 胃がんの基礎と臨床 がん検診 ー過去・現状・未来ー がん性疼痛治療、緩和医療と精神腫瘍学 ー現状と将来の展望ー 血液腫瘍の診断と治療の最近の進歩	大腸がんの基礎と臨床 頭頸部がんの基礎と臨床 乳がんの基礎と臨床 膵臓がんの基礎と臨床 ー最近の進歩ー
2004～2013	胃がんの基礎と臨床 ー最近の進歩ー 感染、がんと予防 がん根治手術後の生理学的変化と QOL 最近の放射線腫瘍学：技術の進歩と臨床導入への研究 頭頸部・食道がんの基礎と臨床 ー最近の進歩ー 科学の発展を乳癌治療へ ～新たなる挑戦～ 放射線とがん 世界のがん研究は今 ～次期対がん戦略に向けた課題～	前立腺がんをめぐる課題と挑戦 悪性脳腫瘍 ～現状と展望～
2014	希少がん：望ましい医療・研究体制を探る	

■ 国際がん看護セミナーの開催

がん患者とその家族を支える看護・医療の向上を図るための、国内外のがん看護関係者とのセミナー。

年 度	テーマ	
2000～2003	がん看護の実践力の向上をめざして がんと向き合う人を支える	がん看護領域の教育と実践 がんと向き合う人を支える part II
2004～2013	がん患者の自律を目指して これからのがん看護 part II 変革するがん看護 part II がん医療における外来看護に求められる役割 part II がん医療における継続したがん看護の充実 part I がん医療における継続したがん看護の充実 part II 高齢者のがん”その人らしさを支えるがん看護と研究”～アジアの国々から～	これからのがん看護 変革するがん看護 がん医療における外来看護に求められる役割 part I
2014	がん医療の質向上を担うがん看護の「現在」と「発展の10年度」を問う	

■ 市民公開講演会の開催

研究成果等を発表。

年 度	テーマ
2008～2013	がん撲滅を目指して がん撲滅に向けた新たな挑戦 ーこれからのがん研究の若き担い手へのメッセージー がん撲滅に向けた新たな挑戦 ーがん研究の明日を担う方々へー がん克服に向けた新たな挑戦 ーがん研究の明日を担う方々へー がん克服に向けた新たな挑戦 ーがん研究はがん医療の未来へ繋ぐー 発がん機序からがん予防まで ー研究成果と課題ー
2014	がん研究と市民社会 ～高齢者がんとサバイバーシップ～

■ がん予防展・講演会の開催

がん研究の現状とがん治療・予防等の最新の情報を国民に広く伝える予防展や講演会を開催して、がんに関する正しい知識・予防法などの普及。
(財) (JKA 自転車補助事業)

年 度	1987～1993	1994～2003	2004～2009
開催会場数等	会 場 数：78 参加総数：399,055 人	会 場 数：79 参加総数：248,519 人	会 場 数：72 参加総数：500,425 人

■ レクチャーシップの開催

世界のがん研究をリードする優秀な研究者を招き、国際がん研究講演会（レクチャーシップ）を開催。

年 度	主な講演者名
1984～1993	ポール・A・マークス博士（アメリカ） ロレンソ・トマティス博士（フランス） クライス・ラメル博士（スウェーデン） サー・ウオルター・ボドマー博士（イギリス） ハラルド・ツール・ハウゼン博士（西ドイツ） ポール・H・M・ローマン博士（オランダ） ニコライ・N・トラベツニコフ博士（ソ連） A・J・マクマイケル博士（オーストラリア）
1994～2003	リチャード・H・アダムソン博士（アメリカ） ジルベール・ド・マシア博士（フランス） アンダーズ・ゼッターバーグ博士（スウェーデン） テランス・H・ラビッツ博士（イギリス） マンフレッド・F・ラジェウスキー博士（ドイツ） カリ・アリタロ博士（フィンランド） ロジャー・ワイル博士（スイス） ロルフ・シュルート・ハルマン博士（オーストラリア） アラン・バーンスタイン博士（カナダ） ツァン・ユーホイ博士（中国） ジェガブ・パーク博士（韓国）
2004～2009	カリ・ヘミンキ博士（ドイツ） スーザン・バンド・ホーウィッツ博士（アメリカ） アーサー・リッグス博士（アメリカ） バーネット・クレマー博士（アメリカ） カルロ・クローチェ博士（アメリカ） ローレンス・マーネット博士（アメリカ） ジョン・シラー博士（アメリカ）

■ がん研究助成

がん治療の新分野開拓のための優秀な研究に対して、研究助成金を贈呈。
(過去10年の実績)

年 度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
一 般	24	24	24	24	37	36	20	24	20	21
特定等	4	4	4	4	12	11	11	4	4	3
計	28	28	28	28	49	47	31	28	24	24

■ 海外派遣研究者への助成事業

がんに関する国際会議、国際学会へ出席する研究者・医師に対し、海外旅費等の助成。
(過去10年の実績)

年 度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	計
派遣数	59	56	76	61	32	37	34	32	30	31	448

■ 看護師・薬剤師・技師等海外研修者への助成事業

看護師・薬剤師・放射線技師等のコ・メディカルに対し、海外旅費等の助成。
(過去10年の実績)

年 度	看護	放射線	臨床検査	薬剤	ソーシャルワーカー	理学療法士	計
2005	2	3	1	5	—	—	11
2006	5	7	2	4	—	—	18
2007	5	7	—	6	1	—	19
2008	4	4	—	5	—	—	13
2009	4	6	—	5	—	—	15
2010	2	8	—	4	—	—	14
2011	3	8	—	3	—	—	14
2012	3	3	1	1	—	2	10
2013	5	3	—	1	—	1	10
2014	2	5	—	1	—	1	9

■ 広報活動

一般の人々にも理解できるがん研究に関する最新情報、日常生活の中で実行できるがん予防法の知識などについて、パンフレット、カレンダーなどにして配布し、正しいがん知識の普及とがん研究者等への資料提供。
(日本宝くじ協会助成事業 他)

年 度	事業内容
1985～1993	がんを防ぐための12か条 やさしいがんの知識 君たちとタバコと肺がんの話 対がん戦略PRポスター、カレンダー がんの統計 16ミリ映画「がんに挑む」「がんから身を守るポイント」の作成 他
1994～2003	がんを防ぐための12か条 やさしいがんの知識 君たちとタバコと肺がんの話 がんどう付き合うか(総論・肺がん・胃がん) がん克服戦略PRポスター、禁煙指導用ポスター がんの統計 他
2004～2013	がんを防ぐための12か条 やさしいがんの知識 君たちとタバコと肺がんの話 がんどう付き合うか(乳がん・肝がん・大腸がん・外来抗がん剤治療・子宮がん・前立腺がん・放射線治療・がんと食事・卵巣がん・食道がん・膵臓がん・緩和ケア・がんのおはなし・がんと暮らし・口腔がん・子どものがん) がんを防ぐための新12か条 がんの統計 予防できる「子宮頸がん」「大腸がん」 早期発見で治そう「乳がん」 「たばこ」がいない、これだけの理由。 他
2014	予防できる「子宮頸がん」「大腸がん」「肺がん」 みんなで考えよう「乳がん」 やさしいがんの知識「胃がん」 がんを防ぐための新12か条シリーズ①喫煙とがん ②飲酒とがん ③食事とがん がん治療前の食事のヒント改訂版 食事に困った時のヒント最新版 がんの統計

がんを防ぐための **新** 12か条

あなたのライフスタイルをチェック
そして今日からチェンジ!!

- 1 条 たばこは吸わない
- 2 条 他人のたばこの煙をできるだけ避ける
- 3 条 お酒はほどほどに
- 4 条 バランスのとれた食生活を
- 5 条 塩辛い食品は控えめに
- 6 条 野菜や果物は不足にならないように
- 7 条 適度に運動
- 8 条 適切な体重維持
- 9 条 ウイルスや細菌の感染予防と治療
- 10 条 定期的ながん検診を
- 11 条 身体の異常に気がついたら、すぐに受診を
- 12 条 正しいがん情報でがんを知ることから

発行 公益財団法人 がん研究振興財団
〒104-0045 東京都中央区築地5丁目1-1 国際研究交流会館内
TEL. 03-3543-0332 ホームページ <http://www.fpcr.or.jp/>

がんを防ぐための **新** 12か条

自分へ家族へ。
予防は思いやり。



公益財団法人 がん研究振興財団
Foundation for Promotion of Cancer Research



公益財団法人 がん研究振興財団

Foundation for Promotion of Cancer Research

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1 国際研究交流会館内
TEL 03-3543-0332 FAX 03-3546-7826 E-mail info@fpcr.or.jp
ホームページ <http://www.fpcr.or.jp>